大阪民衆史研究会報

2026年7・8月号
第33巻第7号
（通巻368号）

発行　大阪民衆史研究会（代表 林　耕二）

E-mail: osaka.minshushi@gmail.com（オーサカ ドット ミンシューシ）

例会のお知らせ

◇8月例会

日時 8月22日（土）午後1時半開場 2時開会　大阪府教育会館3F桃

報告　石月静恵さん（会員・大阪女性史研究会）

石原佳子さん（会員・大阪市史料調査会理事）

「『新聞でたどる女性史－朝日新聞記者恩田和子の仕事』を出版して」

恩田和子（1893－1973）は、1917年から1948年まで大阪朝日新聞社に勤務し、全関西婦人連合会の創立（1919年）に尽力し、その後同会の理事長として戦前の女性運動を牽引しました。恩田は退職後、嘱託として朝日新聞大阪本社社史編修室で勤務した間、女性に関わる記事を編年史にして、200字詰め7000余枚の原稿を残しました（恩田史料、朝日新聞社所蔵）。今回、その目次を年表にして、解説とコラムをつけ刊行しました。本書から、日露戦後から戦後1948年まで、中央中心ではなく大阪から見た女性問題の所在を理解できると思います。

◇9月例会

日時 9月6日（日）午後1時半開場、2時開会　大阪府教育会館3F楓

報告　尾崎　翔さん（会員・志摩市職員）

「志摩半島の民俗文化財について」

本発表では、三重県志摩市の生産用具が国の重要有形民俗文化財に指定された背景を、地域特性と暮らしの視点から紐解きます。志摩は外海・内海の異なる海況を活かし、海女漁や真珠養殖のほか、農耕や山樵など多角的な生業を発達させました。環境に合わせて道具や生業を柔軟に変化させてきた人々の知恵と技術に注目し、半島の風土が育んだ独自の生活像と、今回の指定が持つ意義を考察します。

参加費　会員400円、非会員500円